2020年10月発行

intertek news

Vol.70

ISO関連季刊情報誌（年4回発行）

CONTENTS

01 伝統

02 03 特集
MS規格の骨格を語る審査報告書について
～SWOT分析とインターテック マチュリティモデル～

04 News&Topics
- エレクトリカル部門 サービスのご紹介：電磁環境調査測定/電磁シールド性能特性測定
- NPS調査 スタートから4年
- ISO45001移行審査申請受付完了
- Information：Protekのご紹介

05 審査の現場から
- お客様紹介
（アトムテクノス株式会社）
連載よみもの「審査員の心理」（環境編）
「環境目標（2）」

06 連載よみもの
- 審査員リレーエッセイ
「新型コロナウイルスの流行と審査活動の覚書」
（審査員　山本 実）
- 環境とISO14001
「新型コロナウイルス危機」（その1：ウイルス感染の理解）

07 お客様からのお便り
- 「帆走（SAILING）のごとく」
（友田セーリング株式会社）
- 「東京ドームシティを支えるプロフェッショナル」
（株式会社東京ドームファシリティーズ）

08 研修コースのご案内
- ちょっといっぷく
- 研修コース案内
- 受講生からのお便り
（山田建設株式会社）

インターテック・サーティフィケーション株式会社
発行 大阪事務所 ◇本誌に関するお問い合わせは大阪事務所まで◇
◆バックナンバーは、弊社ホームページにてご覧いただけます。
https://ba.intertek-jpn.com/

伝統

EMS＆OHSAS認証部 スキームマネージャー補佐　清水（しみず） 恭一（きょういち）

皆様、突然ですが「童子切安綱（どうじぎりやすつな）」「数珠丸（じゅずまる）」「大典太（おおでんた）」「三日月宗近（みかづきむねちか）」「鬼丸国綱（おにまるくにつな）」、、、何かお分かり頂けますでしょうか。答えは、日本刀の名称で、「天下五剣（てんかごけん）」と呼ばれるものです。「童子切」「大典太」「三日月」は国宝、「数珠丸」は重要文化財に指定、「鬼丸」は御物(皇室所蔵品)となっています。

刀剣が国宝に指定されているのは日本のみで、その国宝約1100件のうち、約120点を日本刀が占めており、歴史との強い関わりが見えてきます。また、身近な言葉には、刀にまつわる多くの慣用句が、根付いています。刀の鑑定書に折紙を使用し、価値を保証する「折紙つき」や、追いつめられた状態の「切羽詰まる」、刀の錆は刀身から生じる「身から出た錆」等々が御座います。

明治時代の廃刀令による武器から美術品へと変革されてきたなかで、神秘的な美しさから神が宿ると考えられ、日本人の精神的な象徴、武士の魂として、心のよりどころをあらわす日本刀ですが、刀工をはじめとして研師、刀装具を製作する白銀師、柄巻師、鞘師など多くの職人による伝統の技と精魂を込めて作られた強さを秘めた優れたものとして認められています。近年、世界で賞賛を受けている伝統の技による精巧な日本刀の製作は、皆様の企業文化や世界に誇る製品やサービス、モノづくりとおなじではないでしょうか。P·D·C·Aを活用し、技を磨き、継承され、更なる発展を経て、成熟させる事による、他の追随を許さない製品·サービスで、お客様の信頼を培われる事。その根本は、皆様の心に宿る「刀」を常に研ぎ澄ませることが一端なのかもしれません。

最後に、古来より日本刀は邪気を払い魔物、悪霊をも断ち切るものとされていますが、今年の4月、刃物の街·岐阜県関市では、刀鍛冶·吉田研さんから、得体のしれないウイルスに打ち勝つようにと願いを込め「コロナウイルス激滅祈願」と彫り、鍛錬された刀が関市に寄贈されています。皆様と共に、新型コロナウイルス感染症に太刀向かい、断ち切る日は、もうそこまで来ています。くれぐれもご自愛下さいませ。

在銘「鈴木大和守助政」

MS規格の骨格を語る 審査報告書について

～SWOT分析と インターテック マチュリティモデル～

インターテック品質主任審査員
加濃　彰

特集

インターテック・サーティフィケーションでは、社内電子化の一環として、審査報告書の電子管理ならびにメールでの報告書提出システムの導入を進めております。67号では、この電子版報告書の『マチュリティモデル』について少しご紹介させていただきましたが、今号では、同じく電子版に記載の『SWOT分析』と合わせてさらに掘り下げてご紹介させていただきます。運用の指標としてお役立ていただければ幸いです。（編集部）

0 はじめに

Intertek News 67号（2020年1月発行）の特集記事の補足情報として、電子版審査報告書の“マチュリティモデル”に関する説明がありましたが、ご覧になっていただけましたでしょうか？

この電子版審査報告書では“証拠の要約”としての報告書の“本文”に先駆け“SWOT分析”“インターテックマチュリティモデル”という方法で審査結果としての評価、報告としてプレゼンテーションを構成しています。このプレゼンテーションを“マネジメントシステム（MS）規格の骨格”を成す要求事項に当てはめて理解されることで、既存の経営戦略の策定手法、プロセスを採用することの有効性も示唆していることが伺えます。

1 SWOT分析とMS規格要求との繋がり

SWOT分析と規格要求との繋がりは、規格要求箇条6.1 に確認できます。

「マネジメントシステムの計画を策定するとき，組織は，4.1 に規定する課題及び 4.2 に規定する要求事項を考慮し，次の事項のために取り組む必要があるリスク及び機会を決定しなければならない．」

箇条4.1 の“外部及び内部の課題”と箇条4.2 の“利害関係者のニーズと期待”を併せてSWOT分析の4つのカテゴリーを構成し得ることが確認できます。

・外部の課題
→ 外部環境：機会（Opportunities）・脅威（Threats）
＊規格ではリスク（Risk）
・内部の課題
→ 内部環境：強み（Strengths）・弱み（Weaknesses）

尚、利害関係者は外部、内部にそれぞれ存在し、外部の利害関係者のニーズや期待はその時々の社会情勢に応じて機会や脅威となり、同じように内部の利害関係者のニーズや期待は強みにも弱みにもなり得ることは、自社の現状に置き換えてみると理解されるでしょう。

用語解説

ーSWOT分析ー
目標を達成するために意思決定を必要としている組織の運営やプロジェクト、新たな事業展開の際に外部環境や内部環境を、強み（Strengths）、弱み（Weaknesses）、機会（Opportunities）、脅威（Threats）の4つのカテゴリーで要因分析し、事業環境の変化に対応した経営資源の最適な活用を図るための経営戦略を策定する方法のひとつ。

ーマチュリティモデルー
組織のマネジメントがどの程度の成熟度に至っているかを判定する尺度として段階を定義したもの。尚、インターテック マチュリティモデルは、審査結果としての組織のマネジメントシステムの成熟度を５段階で定義、解釈の一貫性を持って世界レベルでの標準化を考慮したもので、審査チームの評価を元にした“ベンチマーキング”を目的としています。
※インターテック マチュリティモデルは、Intertek News 67号をご参照ください。

ーベンチマーキングー
組織が製品及びサービス、プロセス、慣行となっている活動を継続的に監視、測定し、優れた競合他社やその他の優良企業のパフォーマンスと比較・分析する活動。

2 SWOT分析とベンチマーキング

さて、SWOT分析とMS規格要求との関係を理解いただいたところで、ベンチマーキングとの関係を考えてみましょう。

数年前、ある菓子メーカーが長年の定番製品の製造を関東地方で中止したニュースを覚えておられるでしょうか？当然、菓子メーカーでは多種多様の製品を継続的に製造、販売しながら、社会のニーズや期待を捉えた新製品の開発を続けると共に、どのような定番製品でも、その売れ行きに陰りがみられ、時代のニーズの変化への対応が不能と判断されれば、生産量を削減するか製造中止にすることで、新製品の製造、販売に経営資源を再配分するなどの戦略が図られていることが理解されます。多種多様の製品の製造、販売数量など各種の関連データ、情報を継続的に監視、測定、他社製品との比較・分析、すなわちベンチマーキングに基づいたSWOT分析によって、このような経営判断がなされ、戦略もって事業展開されている状況が垣間見えてきます。

このベンチマーキングが、規格要求事項“9.1 監視、測定、分析及び評価”に対応していることは既にお解りでしょう。

3 まとめ

これだけでは、この記事のタイトルの“MS規格の骨格”を示したことにはなっていません。マネジメントレビューを、このベンチマーキングに基づいたSWOT分析として一連のプロセスを構成することが必要です。ISO9001:2015 規格を例にすると、次の3ステップでSWOT分析が成立することになります。

ステップ1：自社のベンチマーキングを“マネジメントレビューへのインプット”である“c）次に示す傾向を含めた，品質マネジメントシステムのパフォーマンス及び有効性に関する情報”の“7つの要素”として確立、実施する。

ステップ2：ベンチマーキングした情報に基づいて“b）品質マネジメントシステムに関連する外部及び内部の課題の変化”“e）リスク及び機会への取組みの有効性（6.1 参照）”に“a）前回までのマネジメントレビューの結果とった処置の状況”“d）資源の妥当性”も含んでレビュー、評価、この結果をSWOTの“外部環境：機会・脅威”“内部環境：強み・弱み”として明確にする。

ステップ3：明確になったSWOTをクロスすることで“機会×強み”“機会×弱み”“脅威×強み”“脅威×弱み”の取組みをインプットのまとめとして“f）改善の機会”とする。

結果として“MS規格の骨格”を示すプロセスは次のようになり、これでPDCAサイクルによる継続的改善が構成されるものと考えられます。これをひとつの解釈として実践することができれば、“事業プロセスへのマネジメントシステム要求事項の統合を確実にする。”ことにもなり、事業活動の成果を継続的に追求可能なシステムが確立されるでしょう。

- 幹部社員によるマネジメントレビューへのインプットによるSWOT分析の実施。
- インプットはベンチマーキングされた“マネジメントシステムのパフォーマンス”が主要素であること。
- このSWOT分析の結果として、インプット側の“f）改善の機会”を導き出す。
- 幹部社員からの“f）改善の機会”に対する経営者による評価、レビュー、修正を経て、アウトプット側の“a）改善の機会”を決定する。
- この決定には“b）品質マネジメントシステムのあらゆる変更の必要性”“c）資源の必要性”が含まれる。
- アウトプットは次の事業活動の目標を含む各種の計画に反映させ、その達成、実現を目指す。
- この計画に基づく活動の成果、結果は、次のマネジメントレビューへのインプットとなる。

筆者紹介

加濃 彰（かのう あきら）

建設、建築設計・開発、経営・建築・ITコンサルティング専門。ISO9001主任審査員。千葉県我孫子市在住。

エレクトリカル部門 サービスのご紹介 オフィス、工場、研究所、建設現場等における電磁環境調査測定/電磁シールド性能特性測定

インターテックグループでは、ISO認証部門を主に行っている弊社の他、様々な品質保証サービスを提供しております。その中のひとつ、エレクトリカル部門(インターテック ジャパン株式会社)が提供しているサービスについてご紹介いたします。

私たちの周りを飛び交っている電波は、時として意図しない事象を引き起こすことがあります。放送用電波塔や携帯電話基地局など、意図的に電波を発射する設備に限らず、オフィスや工場などで日常的に使用している様々な電気・電子機器などからも電磁波が発生しています。自動車や電車などからも同様です。これらの電磁波は他の機器への誤動作を引き起こす可能性があり、当部門では、これらのソリューションとして、お客様ご指定のあらゆる場所における電磁環境の調査を行っております。

また、情報セキュリティの一環として、オフィスや研究施設などからの機密情報を含んだ電磁波(無線LAN等)の漏洩調査も行っております。ご相談等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。

[実績および推奨場所]
- 工場、研究所等の施設建設予定地、また、無線機器導入予定のオフィスにおける電磁環境調査
- オフィスや工場等における機器誤動作の原因調査
- ラジオや無線等、受信障害の原因調査
- 電波漏洩が気になる施設等におけるシールド性能測定

電磁環境測定の一例

[お問い合わせ]
エレクトリカル部門:03-6435-2410　http://ew.intertek-jpn.com/emc/

NPS調査 スタートから4年

弊社では、審査後に審査業務の改善とサービス向上を目的にメール/Faxでのアンケートを実施しておりますが、それに加え、NPS調査も実施しております。NPS調査は、「ネット プロモーター スコア」と呼ばれる電話による聞き取り調査で、毎月ランダムに約30社を対象に実施し、ご協力をお願いしております。

これは、お客様のロイヤリティを測る指標の一つで、お客様と直接お話しさせていただくことで、言葉通りの最新のコメントを共有いたします。弊社側が改善・成長をし、さらに良いサービスを提供することで、お客様と弊社の両者がより良い関係となることを目的としております。

最近では、『コロナ禍での審査を心配していたところ、リモート審査で対応してもらい、当日も丁寧な説明で安心して受けられた。』『審査員さんが当社の目線に立って審査してくれてとても助かっている。』などのお声をいただいています。

ご多忙の折、大変恐縮ですが、調査の際には、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

ISO45001 移行審査申請受付完了

2018年にISO45001:2018が発行され、OHSAS18001はISO45001へ切り替わるため、移行期限(原則発行後3年以内)までに、ISO45001への認証移行が必要となります。移行期限を過ぎるとOHSAS18001は失効するため、弊社では余裕をもって本年9月頃までの移行審査を推奨し、毎月申請状況をエリアごとに確認して移行推進に努め、順調に進んでおりましたが、7月にはすべてのお客様の移行審査申請への対応が完了いたしました。ご協力いただきました皆様、どうもありがとうございました。

INFORMATION

～新認証サービス紹介～

Protekのご紹介

世界初！　健康と安全を目的とした一貫認証プログラムを開始しました

世界中が、新型コロナウイルス感染症拡大によるパンデミックに陥っている中、インターテックはProtek(プロテック)を2020年5月にプレスリリースしました。Protekとは、インターテックが持つ様々なソリューション(保証、試験、検査、認証)を用いて、人々や職場、公共施設に対する健康、安全を継続的にプロテクトする為の一貫認証プログラムで、現在、世界各国にて様々なProtekソリューションを展開しています。特に昨年インターテックグループに加わりましたCristal International Standards社の持つホスピタリティ業界向け認証の一つ、感染症拡大防止認証 POSI-Check(Prevention of the spread of infection)を用いて、ホテル(8月末現在470ホテル認証済)や飲食スペースだけでなく、学校、病院、オフィスビルや観光エリア全体(DMOエリア)に安心、安全を提供しています。

現在の日本のホテル、旅館の客室稼働率は平均で20%台(2020年6月実績)と、アジア諸国の平均値30～50%に比べても低く、要因としては新型コロナウイルス感染者数が減少傾向に安定していない事が考えられています。Go Toトラベル事業など国内需要の回復に向けて、厚生労働省、日本ホテル協会等のガイドラインをベースにそれぞれ独自の衛生管理方法、ガイドラインを作成し、お客様への安全をPRしていますが、取り組みにはホテル・旅館毎に差があります。今後、国内需要だけでなくインバウンド需要を考えた時、何を基準にどこまでの対策を行えば、お客様及び従業員の安心、安全を得ることが出来るのか、共通の標準が必要になります。

POSI-Checkは、世界保健機関(WHO)と米国疾病予防管理センター(CDC)のガイドラインに準拠したプログラムとなっており、各施設それぞれの対策、努力をPOSI-Checkという世界基準に照らし合せ、維持管理していく事で、長引くパンデミックの中でもお客様を受け入れる体制が整い、来年のオリンピック・パラリンピックへの十分な準備が可能となります。基準に準拠していることが認められると認証書が発行され、認証書は社内(施設内)やWebサイトでも使用でき、社外からの評価・信頼にもつなげることができます。ご興味がありましたら、弊社東京事務所営業部(03-3669-7435)までお気軽にお問合せください。

https://www.intertek.com/protek/(英語版)

POSI CHECK

お客様紹介

アトムテクノス株式会社 様

（ISO9001：2015、ISO45001：2018認証登録）

〔取材者〕 審査員 **美濃 英雄**
Hideo Mino

アトムテクノス様は、道路用塗料国内トップメーカー、アトミクス株式会社の工事部門として平成7年に分社設立された会社で、本社はさいたま市にあります。

交通安全事業・土木工事事業に従事し、人身の安全、道路の美化、土木構造物の維持修繕を目的とし、社会に貢献する、意義のある仕事に携わられています。2012年に9名が犠牲になった笹子トンネル天井板落下事故現場（山梨県大月市笹子町）でも、24時間突貫で作業、緊急復旧に尽力されました。

警視庁からの発注現場では、六本木アマンド前、お台場フジテレビ前、小石川橋東京ドーム前、雷門浅草寺前など、各横断歩道の塗装工事も担当されています。

右下写真の橋梁点検車は、地上高100m以上になり、先頭のゴンドラに乗ると大変怖いため、部下の方が嫌がると、上司の方が乗られるとのことです。

また、昨今建設業界でも女性の進出が増えていますが、アトムテクノス様でも、東北地方の現場に女性技術者（2級建築士）の方が約2年間従事されており、現場の雰囲気が和むとチームワークもスムーズに進んでいるそうです。女性が働きやすい環境づくりにも取り組まれ、今後益々の活躍が期待されます。

新東名高速富士宮市現場

先端のゴンドラに乗る点検車

http://www.atomtechnos.jp/

連載よみもの 審査員の心理

第30回（環境編）

「環境目標（2）」

環境主任審査員 **大村 敏夫**
Toshio Omura

前回は、組織にとって必要な取組みが目標になっているかについて述べましたが、多くの組織にとって、省エネ・省資源・排出物の削減は環境面での永遠の課題でしょう。これらを目標とすることは妥当と思いますが、課題がそのまま目標となっている場合も見かけます。例えば、「○○の削減」という目標では、何を基準として削減するのか、どのように評価するのか不明確と感じられます。目標については、「（実行可能な場合）測定可能である」（6.2.1）ことが求められていますが、“測定可能”とは、必ずしも“数値化”ではありません。取組みを工程表で計画し、実績と比べること、改善前後の写真を比べることでも測定可能となることがあるでしょう。「進捗を監視するための指標を含む結果の評価方法」（6.2.2）を明確にすることが望まれます。

目標とは「達成する結果」（3.2.5）であって、その「環境目標を達成するための取組みの計画策定」（6.2.2）を規格は求めています。

例えば、“○○の前年比10%削減”という目標を設定した場合、その達成のための施策が明確で無いと、どのように取り組むのか分かりません。施策は目標を達成することが期待できるものが望まれます。例えば、目標への取組みとして“毎月、勉強会を実施する”という施策が挙げられ、勉強会が毎月実施されていたら目標達成としているが、目標とした削減等はできていない、ということもありました。

適切に設定された目標でも、達成できないこともあり得ますが、“目標未達”を理由に、審査員は不適合を指摘することは無いはずです。生産量の増減、気候変動などの影響を受けて、エネルギーや資源・廃棄物などの量も増減するでしょう。昨今の新型コロナウイルスの流行の影響で多くの企業の活動（生産や働き方など）にも変化が発生しています。このような状況の変化に応じて、目標や施策の見直しがされても良いでしょう。

審査では、組織にとって必要な課題やリスク・機会から目標が設定されているか、達成度が評価可能か、施策としての取組みが目標を達成可能なものか、状況に応じて見直されているかを確認するようにしています。

審査員リレーエッセイ ⑱

From
埼玉県さいたま市
山本 実
（やまもと みのる）

Profile
専門分野：ISO9001、ISO14001、ISO45001ー総務、法務、経理、行政書士業務全般
経　　歴：大学卒業後約20年間企業の管理部門に従事し、その後行政書士登録（現職）、インターテック審査員（現職）

審査員からのエッセイをお楽しみください。

「新型コロナウイルスの流行と審査活動の覚書」

本日は2020年9月4日。東京都の昨日（9/3）における新規陽性者数が211人と発表され、新型コロナウイルス感染症は、既に第2波のピークが7月末ごろだったと報道されています。そして、日本全国に緊急事態宣言が発出された4月7日からは、約5ヵ月が経過しました。

様々な変化が急激に起こる中で、審査活動もオンラインを活用した「リモート審査」が、条件を満たした上で、実施されるようになっています。また、ご一緒する多くの審査員の方々とは、依然として、日常生活からの感染リスク対策・お客様訪問時の審査員とお客様のあるべき距離の取り方や審査方法について、議論を重ね続けています。そういった面から、この感染症が審査活動にも直接間接に影響を与えていることを今も実感し続けています。関係者が今後も協力しながら、この事態に継続して善処できることを祈念いたします。

連載「環境とISO14001」⑱

「新型コロナウイルス危機」（その1：ウイルス感染の理解）

環境主任審査員　郷古 宣昭 Nobuaki Goko

2019年末から全世界を襲っている新型コロナウイルス感染症は、この原稿の執筆時点(2020年9月30日)では世界の感染者は約3300万人、死者は100万人を超えていて終息の気配は見えません。これから数回にわたり「新型コロナウイルス危機」について、「環境と社会的責任」の観点からどのように対応すべきか考えてみたいと思います。

■ ウイルス感染をどのように理解するか

微生物（ウイルス、細菌等）が46億年と言われる地球の歴史上に登場したのは30億年前とされています。人間の祖先であるホモサピエンスが誕生したのが20～200万年前で、ヒトは地球生物の中では新参者にすぎません。彼ら（微生物）と共生する覚悟が必要と思います。

ウイルスは自分自身だけでは生きていけず、他の生物（宿主）の細胞内に侵入して自らの遺伝子を複製し、増殖します。宿主となる生物はコウモリ、センザンコウ、ハクビシン等の哺乳類、蛇、トカゲなどの爬虫類、鳥類であり、多くの場合、人間の立入が困難な奥深い森林でひっそりと棲息していました。ウイルスもまた宿主の体内でひっそりと命を繋いでいました。

■ 感染パンデミックに至った原因は何か

新型コロナウイルスがどのような経路で人間に感染するようになったか未だ良く分かっていませんが、動物由来の感染症が今世紀に入って頻発していること、その原因は「野生動物の棲息エリアに人間が近づき過ぎたため」と多くの研究者が指摘しています。以下のような事例を挙げています。

- 西アフリカでの鉱山開発や東南アジアでの農場・牧場開発のための大規模な森林伐採で生息地を追われた野生動物が人間の居住エリアに進出して来た。また、近年、大規模な森林火災が各地で発生し、多くの野生動物が棲息地を追われたと推定されている。
- 森林奥地で働く伐採作業者や建設作業者のキャンプで野生動物の肉(ブッシュミート)が食材として提供されている。また、森林の奥深くに道路ができて周辺都市部からのアクセスが容易になり、ブッシュミートが生きたままマーケットに並び、レストランでも高級食材として使用されている。
- 1970年代、狂犬病ウイルスの宿主であるアライグマが愛玩目的で日本に大量に輸入され、飼主から放たれたり逃げ出したりしたものが野生化して広く棲息するようになった。今でもヘビやイグアナ、スッポンモドキが法の網をくぐって持ち込まれている。また、各種ウイルスの宿主になっているセンザンコウが東南アジアでは食用と漢方薬の原料として取引されている。

アメリカの資源保護団体 グローバル・ワイルドライフ・コンサベーション（GWC）主任自然保護オフィサーのラッセル・ミッターマイヤー氏は、「人類は家畜を殖やし、今や全哺乳類の60%を占めるに至った。ヒトは36%、野生の哺乳類は4%に過ぎない。家畜はウイルスの恰好の攻撃の的になり、ヒトへの感染リスクとなっている(＊)」と警告しています。
参考＊:「世界」(2020.8) P98-104

■ 私たちは何をすべきか

新型コロナウイルスの感染者は現在(2020年9月)も増加中で、その影響は計り知れませんが、ウイルス感染症のさらなる発生を抑制するためになすべきことは以下のようなことでしょう。

(1) 森林の消失を防ぐこと。これには森林の適切な管理と気候温暖化の抑制が必要です。
(2) 野生動物を捕獲し、食材や医薬、ペット等に使用する行為をやめること。中国やベトナムでは法的に禁止していますが買い手がいる限りなくならないでしょう。
(3) 私たち「地球人」は生物多様性を守る義務があることを認識することが重要でしょう。肉の消費を減らし、植物ベースの蛋白質に切り替えていくことも必要でしょう。

次回はコロナ危機後の世界がどう変わるか、変わるべきか、社会的視点も加えて考えてみます。

No.01 Letter

帆走（SAILING）のごとく

友田セーリング株式会社（ISO14001:2015／MSC CoC認証登録）

マネージャー　武良 美知子

本社（鳥取県境港市）

当社は昭和37年、日本海の拠点境港にて創業。山陰一の霊峰大山を望み、白砂青松が続く弓ヶ浜半島の突端で海を愛し、海と共に歩みながら現在に至っています。

平成8年に本社及び工場を新設移転し、それを契機としカニ加工にウエイトを置き、おいしく安全な食品を目指し消費者の皆様に喜んで頂ける商品を製造し、新たな商品の開発にも取り組んでいるところです。

最も安全な食品を造るために平成12年にHACCP工場を新設し、翌平成13年には紅ズワイガニ、ズワイガニ等3品目のHACCP認証を受けました。また環境保全の重要性を考え、平成14年にはISO14001の認証を受け、さらに平成28年にはMSC CoC認証も受け、環境保全にも取り組んでいます。海外にも協力工場を持ち、高い技術力と販売力でカニや魚分野のトップ企業として、安全でおいしい物造りを追求しています。

経営方針「帆走のごとく」は、『自然の力を技に変える逆風でも前へ　追い風はさらに速く　復元する力』という意味から来ています。

カニ・魚加工商品

▶http://www.tomoda.co.jp/
▶https://www.housyou.co.jp/（通販サイト）

No.02 Letter

東京ドームシティを支えるプロフェッショナル

株式会社東京ドームファシリティーズ（ISO9001:2015認証登録）

ドームシティ事業所所長　丹波 貞治

東京ドーム（東京都文京区）

当社は1985年に株式会社後楽園スタヂアムBS事業部より、球場内外の清掃・塵芥処理・消毒・ランドリー事業を引き継ぎ、「㈱後楽園総合サービス」として誕生しました。

2001年、東京ドーム内清掃サービスにおいてISO9001を認証取得し、協力会社を含めた弊社の社員・アルバイト全員に「品質に対する意識の向上」が見られ、ミスを事前に防ぐことも出来るようになりました。現在はISO9001のノウハウの活用範囲を東京ドームシティ全体に広げ、お客様に気持ちよく利用していただける環境づくりに取り組んでいます。

私たちは、東京ドームシティを訪れたお客様に、安心して楽しめる環境・時間を提供するために、常に安全・清潔・快適さの追求に全力をつくし、今日も東京ドームシティを支えています。当社は一般企業や行政・自治体のお客様に対しても、東京ドームシティのさまざまな施設で培った総合的なノウハウを、事業運営を通じて提供してまいります。現在のコロナ禍により、企業や人々の意識や慣習は変化していくことが想定されますが、今後も東京ドームグループの一員としての自信と誇りをもって、一歩ずつ堅実に歩んでまいります。

▶ https://www.td-f.co.jp/

秋の気配が深まり、美しい紅葉の季節となりました。一般に赤くても黄色くても紅葉（こうよう）といいますが、正しくは赤く色づくことを紅葉（こうよう）、黄色く色づくことを黄葉（こうよう）といい、葉の色づきは色素によるものです。主に葉の中には緑色のクロロフィル（葉緑素）と黄色のカロテノイドという色素があり、光合成が活発な夏には葉緑素が増えるため緑がより濃く見え、秋になり日照が落ち光合成の活動が弱まると不要となった葉緑素が分解されて黄色のカロテノイドが目立つようになります。これが黄葉です。そして、光合成停止後、光合成でできた糖分や葉緑素の分解時に発生するアミノ酸などから赤色の色素（アントシアニン）が作られるようになると、葉が赤く見えるようになります。これが紅葉になります。

ところで、植物にも血液型があるのをご存じでしょうか？人間の血液型は、ABO式では、A・B・AB・O型の4種類に分類されます。これは赤血球表面の糖鎖（血液型物質）の構造の違いによって決まりますが、植物は私たちのように赤い血液が流れている訳ではもちろんなく、植物をすりおろした液の中に血液型類似物質という似た構成の糖鎖があり、それを測定することで分類が可能となります。ただ、この糖鎖があるのは植物全体の約10%で、その約半数がO型、残りのほとんどがB型かAB型でA型は少ないそうです。

また、動物にも血液型があります。ネコはA・B・AB型の3種類に分類され、日本のネコの約9割がA型だそうです。イヌの場合はABO式ではなくDEA式分類が一般的で、国際的に認知されているのは8種類とのこと。その他、ウシやクジラはB型、ニホンザルはO型とB型、そして魚はすべてA型になるそうです。

このように人間以外にも血液型があることが判明していますが、それが思わぬトラブルにつながることもあります。ある民事案件では、一旦は血液型検査でA型と判定された人の血痕検体が、その後、その色調が異常だったことから人血試験を行ったところ陰性と判明。追加検査で魚の骨の一部と推測できる物質が観察されたためにDNA判定が行われ、最終的に人の血痕ではないとの結論になった事例があったそうですので驚きです。

ちなみに、紅（黄）葉でよく見るカエデはO型とAB型があり、O型のカエデは葉にアントシアニンが多く含まれるため紅葉し、AB型のカエデはカロテノイドが多く含まれることから黄葉になるそうで、状況・条件によって色づきが変わる木だそうです。このような状況ですが、機会がありましたら、興味深い紅葉の世界を楽しまれてはいかがでしょうか？（参考：もみじかえで研究所、法科学鑑定研究所、みんなのどうぶつ病気大百科、国立国会図書館各HP）

Information on training courses

研修コースのご案内

開催日程・開催地等、研修に関する詳細は弊社ホームページにてご確認ください。（https://ba.intertek-jpn.com/study/）

審査員養成コース

審査員養成コースは、審査員を目指される方だけでなく、最近では企業様から、品質管理体制の改善や、内部監査員のさらなるスキルアップを目指してご参加いただくことが増えております。業務改善や力量向上を目指している皆様のご参加をお待ちしております。

- ISO9001（5日間）/ISO14001（3日間）/ISO45001（3日間）
  ※ISO14001/45001の3日間コースは受講要件がございます。
  詳細は弊社ホームページにてご確認ください。

開催地 東京（弊社東京事務所）

日　程
- ISO9001・・・決定次第、弊社ホームページにてご案内
- ISO14001・・・12/19（土）～21（月）
- ISO45001・・・12/26（土）～28（月）

JGAP審査員研修（青果物・穀物）

開催地 東京（弊社東京事務所）

日　程 11/10（火）～12（木）

NEW オンラインセミナー

6月よりオンラインセミナーの開催を始めました！
各種規格（ISO9001/ISO14001/ISO45001/ISO27001）の内部監査員養成一日コースを開催しております。
詳細は弊社のホームページをご覧ください。また、従来の講師派遣型セミナーもオンライン対応可能です。

＊弊社ホームページよりお申込みいただけます。FaxまたはEmailでのお申込みの場合は、ホームページより申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、ご送付ください。

受講生からのお便り

ISO9001：2015 内部監査員養成一日コース（オンライン）を受講して

品質内部監査員養成コース（2020年6月 オンライン）受講

山田建設株式会社
取締役　山田 義瑛

当社は今年で69年目を迎える軌道工事会社です。鉄道事業者から依頼を受け、線路の敷設や古くなったレールの交換などを行い、電車の安全運行を支えている会社です。

今回は内部監査員としての力量を身につけ、ISOを活用した会社経営を引き継いでいくために受講致しました。

新型コロナの影響でオンライン講座での受講となり、内容を十分に理解できるか不安でしたが、規格の基礎的な部分から丁寧に説明して頂きわかりやすかったです。また、グループワークでは、チャット上に参加者からの意見が活発に挙がっていた為、多様な考え方に触れることが出来とても勉強になりました。1日講座でしたが、その分充実した濃い内容となっており非常に満足しました。

今回学んだ内部監査員としての知識を活かし、業務品質の向上を目指していきたいと思います。

インターテック・サーティフィケーション株式会社　https://ba.intertek-jpn.com/
東京事務所　〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋ノーススクエア　TEL：(03)3669-7408 FAX：(03)3669-7410 E-mail：info.ba-japan@intertek.com
大阪事務所　〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル5F　TEL：(06)6150-0571 FAX：(06)6150-0575 E-mail：info.ba-osaka@intertek.com